

BMIと体重増 母乳に影響 富大

富大は6日、妊娠前の体格指数（BMI）と妊娠中の体重増加量が、母乳を与え続けられる期間と関連していると発表した。妊娠前の肥満予防、妊娠中の体重増加量の適正化が重要と指摘している。

富大エコチル調査富山ユニットセンターの稲寺秀邦名誉教授らのグループが、子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）に回答した8万2129人の母親の回答データを用いて分析した。妊娠前のBMIを低体重、普通体重、肥満の三つに分け、妊娠中の体重増加量を不十分、適正、過剰に分けて調べた。

低体重と普通体重の母親は、体重増加量が適正でなかった場合、出産後の6カ月間、継続して十分な量の母乳が出ないリスクが高いと分かった。肥満は体重増加量に関係なく、継続して母乳が出ないリスクが高くなると判明した。成果は産科系専門誌にオンライン掲載された。